

2章 記録しよう

子どもたちの行動や言葉の一つひとつには、きっかけや意味があります。しかし、多くの場合は、保育者の記憶から消えてしまいます。そのため、保育を振り返るために必要な子どもの姿や状況を、保育者一人ひとりが記録することが重要になります。また、多くの園では保育の充実や向上のために、記録を有効に活用する様々な工夫がされています。そこで、この2章では様々な記録をご紹介します。

<様々な記録> (2章の5項目)

- 1 みんなで記録しよう …………… 視点を持ち、子どもと関わる者みんなが記録をすることで、新たな発見や実態を共有
- 2 みんなで記録を深めよう …………… 記録を保育者みんなで協議することで、考察の深まりや新たな観点を見出し共有
- 3 記録から「事例」へ …………… 分析や考察の観点到って記録の記述を工夫し、読み取りを深めて事例に
- 4 子どもと共に振り返る「記録」 …… 子どもをつぶやきや様々な言葉や絵、写真などを、保育に活かす記録に
- 5 記録を保護者と共有しよう …………… 保育者や子どもの記述したものを、保護者とも共有

<記録のための3つの手段>

メモを取る

保育をしながらでは把握することが難しい、子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という姿。子どもをつぶやきや表情、対象に注目したり黙々とかかわったりする姿をメモを取るための工夫をすることで、実態が見えてきます。

さらに、継続して記録することにより、子どもの成長や、次への手段が見えてきます。

今日のキラッ☆ 5月23日 晴れ

畑で草取り、草を抜くと…A男「あっ、ミミズ!」
保「何で畑にはミミズがいるんだろうね!？」
A男「野菜をねらっているんじゃない!？」
B男「ミミズはね、畑を育てているんだよ!」
これまでの経験から学んできたことを覚えてくれて感動!

<いぼばらこども園(愛知県)>

写真を撮る

保育を振り返り、子どもたちの様子を記録しようと思う時、写真があることで記憶がさらに蘇ってきます。また、保育者間での話し合いでは、記録と写真により、共通理解を図り易くなります。

同じ時期や同じ場の写真を比較することで、記録にない事実が見えてくる場合があります。

カタツムリに触れる



ティックルゾーン横に設定した虫かご、図鑑のある机にK男が来て虫かごを抱え込みじっと見ている。その後I男が来て「Kくん、カタツムリさわれる?」と聞きながらカタツムリの入っている虫かごを持つ。指差したつもりが、自分でさわってしまう「あー!カタツムリさわっちゃった!」と言い、さわった指のにおいをかぐ。

自分が興味をもった時に、じっくりと観察できる環境があることの大切さを感じた。カタツムリをさわってしまった後、とっさにおいをかいたI男。見るだけではなく、さまざまな感覚を使って観察したり、確かめたりしている。

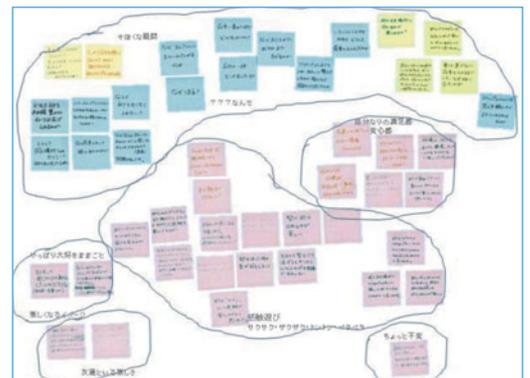
<品川区立西五反田保育園(東京都)>

動画を撮る

子どもが夢中になって遊ぶ姿や繰り返し遊んでいる様子は、大事な場面にも関わらずなかなか詳細な記録は取れません。

また、同じ場面でも、観察する保育者により捉え方が違います。

そのため、ビデオ撮影の映像記録を基に、事例にしたり協議をしたりすることは、考察の深まりにつながります。右の図は、全保育者で映像を視聴し、「~かな?」と理解「どうして?」と疑問「~したらどうなる?」と推測という子どもの姿の3点を、3色の付箋紙に記述して協議に使ったものです。付箋を分類整理して台紙に貼ったりまとめたりすることで読み取りが深まります。



<常磐会短期大学付属泉丘幼稚園(大阪府)>